

JAPAN/ICOMOS INFORMATION

第2期 第3号

平成2年2月18日 発行

(90)

諸報告

◎ 1989年度第4回理事会

日時：1990年（平成2年）1月27日（土）午後2時～3時30分

会場：プレスセンタービル9階、日本記者クラブ

出席者：坪井委員長、石沢、稲垣、伊藤（延）、木原の各理事

議 事

I 報告事項

1) 庶務報告

①1990年総会準備。

②会員増員に関し、入会おすすめの促進、1989年12月2日付けで入会の呼びかけ。

③新規会員候補者リスト作成。

2) 広報報告

①JAPAN/ICOMOS INFORMATION 第2期第2号の発行（1月8日付け）。

②「関野貞論文」の印刷配布。

3) 事業報告

①新事務所の件、文化財工学研究所と決定。

4) 国際イコモス総会開催の件。1990年10月6日～11日、スイスのローザンヌにおいて開催されるので、会員が多く出席して下さるよう呼びかける。

II 審議事項

1) 新規会員の件

18名の入会申込があり、承認。なおこのほか、西村幸夫氏（東大助教授）及び川添智利氏（東海大教授）は、入会申込を受け付けているところであるので、承認する。各、総会へ上程することとなった。これにより、国内委員会の会員は97名（1月27日現在）に1990年新会員が20名加わり、合計117名となる。

2) 役員を増員の件

①新規会員の加入等により、役員を増員して諸務を分担する必要がある。

②そこで、7名の候補者を総会に上程し、選出の議決を受けることとする。

3) 1990年活動計画の件

- ①事務組織の強化。
- ②国内の同種の諸団体とのネットワークづくり。
- ③研究会活動の活発化。
- ④Documentationのありかたを考える件。

◎ 1989年度

日本イコモス国内委員会総会

日時：1990年（平成2年）1月27日（土）午後3時30分～6時

会場：プレスセンタービル9階、日本記者クラブ

出席者：坪井委員長、関野名誉委員長、吉川名誉会員、石井、石沢、稲垣、伊藤延男、木原、の各理事、片桐、藤本、渡辺保忠、益田、の各委員。
出席者計12名。委任状提出42名。出欠回答無し43名。委員総数は97名（1990年1月27日現在）で、委任状を含む出席者は過半数を越え、総会は成立（担当：石沢庶務理事）。

議 事

I 報告事項

1) 庶務報告（担当：石沢理事）

- ①総会案内を全会員に発送（1月8日）。
- ②1990年新規入会申込者が20名あった。
- ③事務所移転のための諸準備を2月上旬から始め、2月中に終了する予定。

2) 広報報告（担当：伊藤延男理事）

- ①JAPAN/ICOMOS INFORMATION第2期第2号の刊行の件。益田兼房委員の協力により、1月8日付けで発行できた。
- ②「関野貞論文」の印刷配布。

3) 事業報告（担当：稲垣理事）

- ①新事務所移転の件。
- ②事務体制の再編成と分担のあり方について、及び事務機構の強化。

4) イコモス研究振興基金等の報告（担当：石井理事） 別紙1のとおり、報告。

5) 会計監査報告 担当日名子委員欠席につき、吉川委員が代理で監査、報告。

6) 会計報告（担当：石井理事）

①1990年1月22日現在、一般会計残高291,977円、基金合計12,550,000円。詳細は、別紙2のとおりで、承認された。

②会費納入の状況、1990年1月22日現在、別紙3のとおりで、承認された。

なお、ひとり、会費振込のさい振込者欄に下記のように記入されたため、氏名不詳となっています。お心当たりの方は、石井昭会計担当理事までご連絡ください。

（氏名不詳）銀行口座記載振込者名：「イコモスクラブ」 890606 金額10,000円

7) 1990年国際イコモス総会の件（担当：伊藤延男理事）

①総会は3年に一度開催されるが、ことし1990年10月6日から11日まで、6日間、スイスのローザンヌで開催される。

②日本も18票の投票権があるので、多くの会員が出席してほしい。

II 審議事項

1) 退会及び入会の件：退会については、中川成夫委員から1989年4月に退会の申し出があり、同年7月の理事会で承認された。本総会で、その会員登録抹消を決定した。入会については、理事会承認にもとづき、下記の20名の新規会員の入会登録が決定された。

石川忠臣、岩下敏也、賀古唯義、川添智利、川嶋一雄、五味盛重
近藤光雄、佐古秀雄、中川 武、日塔和彦、西村幸夫、橋本 孝
波多野 純、羽生修二、福本都治、麓 和善、屋部憲右、山本雅治
渡辺勝彦、渡辺保弘（五十音順）

2) 役員増員の件：①新会員が現在117名に達する。②若手役員の増員により、活動を活発化する必要がある。③国内外へ向けてのサーヴィス・レファランス・宣伝活動を新しく始める必要がある。以上の理由から、下記の7名の新役員が、理事として選出された。

河原純之（打診中）、陣内秀信、西村幸夫、羽生修二、益田兼房
渡辺勝彦、渡辺保弘（五十音順）

なお、1988年度総会（1989年3月1日開催）では下記の役員が改選されているので、役員は合計16名の委員となる。

委員長 坪井清足
副委員長 牛川喜幸、加藤晋平、稲垣栄三
本部執行委員 伊藤延男(1987～1990)
理事 伊藤延男、石井 昭、石沢良昭、稲垣栄三、木原啓吉
監事 日名子元雄

3) 1990年活動計画の件

- ①移転に伴う新事務局づくり。
- ②事務機構の強化と外国人イコモス会員へのサーヴィス活動の開始。
- ③文化財保護等の国内諸団体との連携強化。
- ④研究会活動の強化。
- ⑤ドキュメンテーション活動の方策を検討。
- ⑥1990年イコモス総会への参加の件。18票の投票権の行使ができ、シンポジウムや分科会も開催されるので、多くの会員の出席を勧める。

4) その他

- ①法人会員の件：理事会で会費等を決めて、募集を開始することで、承認。
- ②イコモスカードの普及と博物館入場料の無料化に向けての活動を開始する。

◎新会員へのお知らせ

①新会員の会員カードがとどきましたので、同封いたします。ご自分の氏名を、カードの上段左よりから、ローマ字表記で記入してください。毎年の会費納入の証明として、うしろにシールをはるようになります。会費納入のまだのかたは、お早めをお願いいたします。大切に保存してください。なお、海外の博物館等では、このカードを提示すると無料になるところがありますので、ご利用ください。

②日本イコモス国内委員会の最新版の規約（昭和62年10月10日改正）を別紙同封します。

③1989年登録の53名の新委員（会員）の登録番号が届きました。1989年6月23日付けでパリのイコモス本部事務局へ新委員の登録を申請中でありましたが、下記のとおり決まりましたので、ご連絡いたします。会員カードに記入される場合は、氏名の下段にお書きください。

NEW INDIVIDUAL MEMBERS JAPANESE NATIONAL COMMITTEE OF ICOMOS

1989

- Mr. Kazuo AMATA	N° 4961	- Dr. Riichi MIYAKE	N° 4986
- Mr. Shigeo AOKI	N° 4963	- Mr. Nagagiro MIYAMOTO	N° 4987
- Mr. Yoji AOYAGI	N° 4958	- Mr. Masayoshi MIZUNO	N° 4988
- Mr. Takashi DOHI	N° 4960	- Mr. Yasumichi MURAKAMI	N° 4989
- Mr. Yoshiaki FUJIKI	N° 4959	- Mr. Tadashi MURAOKA	N° 4990
- Mr. Tsuyoshi FUJIMOTO	N° 4962	- Dr. Masao NAKAMURA	N° 4991
- Mr. Tsutomu FUJIWARA	N° 4965	- Mr. Toshikatsu NAKASATO	N° 4992
- Mr. Shigenobu HANZAWA	N° 4966	- Dr. Kazuo NISHI	N° 4993
- Mr. Yoshio HASEGAWA	N° 4967	- Mr. Tadateru NISHIURA	N° 4994
- Dr. Kiyoshi HIRAI	N° 4968	- Mr. Eiji NITTA	N° 4995
- Mr. Satoshi IHARA	N° 4969	- Mr. Sachihiko OMURA	N° 4996
- Mr. Kazuya INABA	N° 4970	- Dr. Hidetoshi SATTO	N° 4997
- Mr. Kanekatsu INOKUMA	N° 4971	- Dr. Katsuhiko SAKAMOTO	N° 4998
- Dr. Hidenobu JINNAI	N° 4972	- Mr. Masaaki SAWADA	N° 4999
- Mr. Hiroyuki KANEKO	N° 4973	- Dr. Kin'ya SEKIGUCHI	N° 5000
- Mr. Masao KATAGIRI	N° 4974	- Dr. Yasuo TAKAHASHI	N° 5001
- Mr. Masahiko KATO	N° 4975	- Mr. Koichi TAMURA	N° 5002
- Mr. Sumiyuki KAWAHARA	N° 4976	- Mr. Ikuo TANABE	N° 5003
- Mr. Mutsuo KAWATOKO	N° 4977	- Mr. Kunikazu UENO	N° 5004
- Mr. Masatoshi KISHIMOTO	N° 4978	- Dr. Yositica UTIDA	N° 5005
- Mr. Tatsuo KOBAYASHI	N° 4979	- Dr. Sadao WATANABE	N° 5006
- Dr. Kimio KONDOH	N° 4981	- Mr. Tadanao YAMAMOTO	N° 5007
- Mr. Yasushi KONO	N° 4982	- Mr. Kazuyuki YANO	N° 5008
- Mr. Kanefusa MASUDA	N° 4983	- Mr. Keiji YASUHARA	N° 5009
- Mr. Sadatoshi MIURA	N° 4984	- Dr. Sei YOSHIDA	N° 5010
- Mr. Karoku MIWA	N° 4985	- Mr. Sakuji YOSHIMURA	N° 5011
		- Mr. Takashi DOI	N° 4964

◎催しのお知らせ

国際シンポジウム「危機に立つアンコール遺跡を救う」

が、別紙4のように開催されます。イコモス委員には別途ご案内を申しあげます。ご出席の委員は、直接に朝日新聞社企画2部にお申込ください。

◎報告

「タイ国東北部における歴史遺跡国際シンポジウム」

報告者：石沢良昭（上智大学アジア文化研究所所長）

8世紀から13世紀までのタイ国東北部における歴史遺跡国際シンポジウム

International Symposium on Historic Cities

in Lower Northeastern Thailand

- 1、主催：上智大学アジア文化研究所・タイ国ユネスコ国内委員会・タイ国文部省芸術局
- 2、日時：1989年12月18日（月）～23日（土）、＜6日間＞
- 3、会場：タイ国東北部スリン県スリン市、ペッケン・カシーム・ホテル
- 4、参加国：日本（10名）、タイ（23名）、インドネシア（2名）、ビルマ（1名）、ラオス（1名）、フランス（2名）、英国（1名）、米国（1名）、ユネスコ（3名） 計8ヶ国・1機関、44名

5、出席者

氏名	／	所属等
坪井善明	／	北海道大学教授・在ベトナム日本大使館専門調査員
千原大五郎	／	上智大学アジア文化研究所客員教授
河野 靖	／	上智大学講師
阿曾村智子	／	上智大学共同研究プロジェクト研究員
西村幸夫	／	アジア工科大学助教授（バンコック）
石沢良昭	／	上智大学アジア文化研究所所長（日本代表）
遠藤宣雄	／	（財）エンジニアリング振興協会主任研究員
佐藤敏一郎	／	（財）エンジニアリング振興協会主任研究員
植田 真	／	バスコ（株）
三橋公彦	／	Thai Kajima Corp. 次長
Prof. M. C. Subhadradis Diskul	／	Centre Director, SEAMEO Regional Centre for Archaeology and Fine arts, 920 Sukhumvit Road Bangkok 10110, Thailand (東南アジア文部大臣機構代表)
Dr. Ruang Chareonchai	／	Secretary-General, Thailand National Commission

for UNESCO, Ministry of Education, Bangkok 3, Thailand (タイ国代表)
Mr.Nikom Musigakama / Director, Department of Fine Arts, Ministry of
Education, Bangkok 3, Thailand (タイ国芸術局代表) ほか21名
Mr.U Khin Maung Nyunt / Director, Department of Archaeology, Rangoon,
Burma (ビルマ代表)
Dr.Dermitzel / CH/UNESCO, 1. rue Miollis, 75015 Paris, France
(ユネスコ代表) ほか2名
Dr.Uka Tjandrasasmita / Director for the Protection, Ministry of
Education and Culture, Jalan Cilacap 4, Jakarta, Indonesia
(インドネシア代表) ほか1名
Dr.Jean Boisselier / Professeur, Universite Nouvelle Sorbonne de Paris,
France (フランス代表) ほか1名
Dr.Janice Stargardt / Director of Cambridge Project, University of
Cambridge, U.K. (英国代表)
Mr.Tongsa Sayavongkhamdi / Director of Conservation, Ministry of
Culture, Vientiane, Laos (ラオス代表)
Dr.Richard Englehardt / Archaeologist, Harvard University, U.S.A.

6、開催趣旨

1) アジアには多くの文化遺産が残っているが、特に東南アジアでは、インドネシアのボロブドール、ビルマのパガン、タイのスコータイ、カンボジアのアンコールなどがあり、世界最大級の文化遺産として知られている。これらの大遺跡は8～13世紀に各民族の王朝が建設した石造りや煉瓦造りの壮大な伽藍であり、また寺院・仏塔・僧院であり、歴史の足跡と栄華の証しをそこに垣間みることができる。これらの遺跡は建築的・美術的に見て傑作であり、当時に人々の最高の価値観を凝集した歴史的モニュメントである。これら遺跡を保存・修復する意義は、未解決の歴史・文化・社会等の問題を究明していく手がかりを得ようとすることにあり、また、遺跡を文化資源と考え、地域の社会発展の中核にすえ、それにもとづく国づくりの精神的・物質的側面に貢献しようとするものである。

2) アジアの文化遺産を守るための国際協力は、アジア諸民族の相互理解と友好に直ちにつながり、これこそ平和のための最も有意義な営みなのである。私たちはこうした視座で文化遺産問題をとりあげ、21世紀にむけて、人類の遺産をどのように保存修復していくか模索し、そのマニュアル(遺跡エンジニアリング手法)を東南アジア3カ国と共同で作成中である。

3) 私たちは、ボロブドール、パガン、スコータイ、アンコールの4大遺跡の比較研究という視座を導入し、これらに共通する保存修復の技術的問題および歴史・宇宙観・建築などの研究問題を採りあげ、学際的な比較検討を行うべく、こうした東南アジア版国際共同研究プロジェクトを組織しているのである。第1回

のシンポジウムでは「アジアの文化遺産の再発見」・「アンコール遺跡の救済問題」（1985年4月19日・20日、上智大学）を採りあげ、第2回は「ボロブドール遺跡の保存修復経験に学ぶ国際シンポジウム」（1986年10月30日～11月2日、ジャカルタ・ジョクジャカルタ）、第3回は「スコータイ遺跡の保存修復国際シンポジウム」（1987年11月21日～25日、スコータイ遺跡博物館）、第4回は「ビルマ・パガン遺跡の研究・修復・発展に関する国際シンポジウム」（1988年8月2日～8月6日、パガン遺跡内ティリピツァヤ・ホテル）を開催し、第5回が標記のシンポジウムである。

4) これらの遺跡研究は遺跡と民族という視点から、東南アジアの文化遺産を考える手がかりを発掘し、そこに住む人々のカルチュラル・アイデンティティの基礎となる資料を提供するものである。学術的裏付けによりそこに住む人々は歴史的・民族的誇りと自信をもつことになり、東南アジア各国とも、遺跡の保存と公開を国の重要文化政策に位置づけている。遺跡研究の現代的な意義は大きいと考えられる。

5) 東南アジアへの人々への理解は、その民族と伝統文化への尊敬の念なしには成り立たず、その捷徑は、民族の文化遺産などに触れることから始まる。その意味から遺跡の保存修復を通じて、「北人南物論」的な旧来の日本人のアジア観を改める好機となる。これらの活動を通じて、アジアへの正しい理解を深め、アジア世界の人々と信頼のネットワークを結び、遺跡を守る協力は先ず「人」の国際協力から始める必要がある。

6) タイ国東北部スリン県・ブリラム県および周辺遺跡におけるクメール系遺跡などの標記の国際シンポジウムでは、現地検証研究を行い、地元で日頃保守作業にたずさわっている技術者および研究を進めている専門家に直接会い、討論を進めていくものである。「アジア現地に学ぶ研究」の姿勢は、私たちの国際シンポジウムの基本的な考え方である。

7、研究発表者氏名および発表テーマ

1) Tuesday, December 19, 1989

Morning

10:00a.m. Mr. Yasushi Kono

Sophia Project on the Study of Historical Sites of
Southeast Asia.

11:00a.m. Mr. Nobuo Endo

Study on the Conservation of Monuments and Sites and
Socio-Cultural Development.

A New Methodology of Historical Site Engineering.

Afternoon

1:00 p.m. Prof. Janice Stargardt

Muang Fa Daed : from Prehistoric Moated Villages to
Khmer-Style City, New Research on Aerial and Satellite Images.

2:00 p.m. Mr. Bovornvet Rungrujee

The Study of Ancient Religious Monuments of
Lower Northeastern Thailand.

3:00 p.m. Prof. Daigoro Chihara

A Call for Immediate Action for the Conservation of Angkor
Monuments - Report of the second survey of the Angkor Monuments

4:00 p.m. Prof. Yoshiaki Ishizawa

Sambhupura and Aninditapura : Two Local Powers.

2) Wednesday, December 20, 1989

9:00 a.m. Ms. Thada Suthitham

Land-use in Khmer Cities / Settlements.

10:00 a.m. Mr. Uka Tjandrasasmita

Notes on the Reflection of the Holy Monuments, Conception of
some Temples in Indonesia and Cambodia.

11:30 a.m. Mr. Makoto Ueda

Demonstration of the 3 space Digitizing System.

3) Thursday, December 21, 1989

9:00 a.m. Mr. Thongsa Sayavonkhamdy

Wat Phu Champasak.

10:00 a.m. Prof. Jean Bosselier

Rôle des Nord-Est dans la Renaissance du Buddhism Khmer du
X ième Siècle.

11:30 a.m. Prof. Claude Jacques

Le Nord-Est de la Thaïlande dans L'Histoire.

(以上)

89年7月31日、文建協事務局より継承

収入

個人寄付金	163名 455口	未収40口	4,150,000円
団体寄付金	16件 62口		6,200,000円
関野先生受賞祝賀会残余金			6,980円
預金利息			6,592円

支出

旅費交通費	5,450円
通信運搬費	57,500円
消耗品費	12,930円
印刷製本費	78,000円
雑費	31,080円

中計・残高 10,363,572円 -184,960円 = 10,178,612円

89年8月31日、醸金者に対し委員長礼状発送

支出追加

通信運搬費	11,160円
印刷製本費	10,000円

中計・残高（礼状に記載） 10,363,572円 -206,120円 = 10,157,452円

89年12月19日、寄付金受領

収入追加

個人寄付金	前記未収分40口	400,000円
-------	----------	----------

総計・残高 10,763,572円 -206,120円 = 10,557,452円

89年9月21日、理事会決定に従って措置

基金設定（住友銀行MMC）	10,150,000円
一般会計へ移入	7,452円

90年1月22日、理事会決定に従って措置

基金設定（住友銀行定期預金）	400,000円
----------------	----------

以上の通り報告します。

会計報告

<別紙 2>

自 1989年2月20日前回報告 ~ 至 1990年1月22日

繰越金 356,702円

収入			
1985年会費	10,000円×1名=	10,000円	
1986年会費	10,000円×1名=	10,000円	
1987年会費	10,000円×2名=	20,000円	
1988年会費	10,000円×4名=	40,000円	
1989年会費	10,000円×67名=	670,000円	
1990年会費(前納)	10,000円×1名=	10,000円	
イコモス研究振興基金より移入		7,452円	
定期預金(基金)利息		77,201円	
普通預金利息		3,306円	
合計			847,959円

支出			
ICOMOS本部1989年会費	延47名=715ドル	103,031円	
同上(新規会員分)	53名=805ドル	113,505円	
総会会場費(1回)		18,644円	
理事会会場費等(4回)		30,837円	
委員長パリ出張旅費補助金		300,000円	
執行委員パリ出張旅費補助金		50,000円	
「関野貞論文」印刷費		117,200円	
同上発送費		25,670円	
広報担当事務経費		48,961円	
庶務担当事務経費		74,544円	
会計担当事務経費		14,920円	
銀行送金手数料		15,372円	
合計			912,684円

残高 (普通預金) 繰越金+収入-支出 291,977円

基金			
仮称・関野基金(定期預金)		1,000,000円	
仮称・河合基金(定期預金)		1,000,000円	
イコモス研究振興基金(MMC)		10,150,000円	
イコモス研究振興基金(定期預金)		400,000円	
合計			12,550,000円

以上の通り報告いたします。
1990年1月27日

会計担当・石井 昭



監査, 依来, 通所, 2月27日

石井 昭

会費納入状況

(1990年1月22日現在)

	会 員 数		納入者	未納者	(免除)
79年分		20名	20名	0名	
80年分		20	20	0	
81年分		34	34	0	
82年分		34	33	0	(1)
83年分		34	33	0	(1)
84年分		33	33	0	
85年分		46	46	0	
86年分	(名誉会員)	47	46	1	
87年分	4名	42名	38	3	(1)
88年分	4	41	36	4	(1)
89年分	4	93	70	23	
90年分前納	・	・	2	・	

国際シンポジウム

「危機に立つアンコール遺跡を救う」

カンボジアのアンコール遺跡群は、保存修復作業の長期中断により、全面崩壊の危機にさらされています。貴重な文化遺産をいかに救済するか、カンボジア人二人のほか、ユネスコ、タイ、フランス、日本の専門家が討議します。最新のアンコール遺跡を伝えるカラースライドも使用します。同時通訳付き。

◇とき・ところ

3月1日（木）、2日（金）

東京・築地の朝日ホール（朝日新聞東京本社2階）で。

◇日程

1日（午後1時半～5時）「いまアンコール遺跡は——現場からの報告」

2日（午前10時～午後5時）「保存修復のために——将来への展望」

◇パネリスト

アンリ・ロペス（ユネスコ本部文化担当事務次長）

マティアス・デアミツェル（ユネスコ本部文化遺跡担当官）

ウック・チア（カンボジア・考古学者）

チュッ・ブン（プノンペン芸術大学考古学部長）

スパトラディット・ディサクン（元シンラパコン大学長）

クロード・ジャック（パリ大学高等学術研究院教授）

千原大五郎（上智大学客員研究員）

河野 靖（上智大学客員研究員）

井川一久（朝日新聞編集委員）

総会司会＝石沢良昭（上智大学アジア文化研究所長・教授）

◇無料。抽選で二百五十人を招待します。傍聴希望者は往復はがきに住所、氏名（返信用にも）、年齢、職業、電話番号、傍聴希望日（両日ともの場合も一枚のはがきで）を明記して、

〒104-111 東京都中央区築地5-3-2、朝日新聞東京本社企画第二部
「アンコール遺跡・シンポジウム係」へ。 19日必着。

主催 朝日新聞社

後援 文化庁、上智大学アジア文化研究所、日本ユネスコ協会連盟

協賛 凸版印刷株式会社